広報かがみの 3
2012年3月号 第85号 毎月1日発行

シリーズ 第22回

中谷の南朝秘史①

―南北朝時代の鏡野町―

中谷の県道82号鏡野久世線を北上していると、「近衛殿」(写真1)や「関白塚」などとよばれる一見都をイメージしそうな場所があります。ここには南北朝時代の関白・近衛経忠にまつわる秘められた伝説が残されています。

南北朝時代とは、鎌倉時代の後、皇室が奈良の吉野(南朝)と京都(北朝)の2つに分かれ、それぞれが正統性を主張し争っていた時代で、この間にはそれぞれが天皇を擁立し、別々の元号を用いていました。年代で言えば一三三六年から一三九二年の間にあたります。

写真1　近衛殿(町指定文化財)

中谷には、南朝の家臣で関白の役職を務めた近衛経忠が中谷の弘秀寺に入り、北朝を倒す計画していましたが、敵の襲来を受けこの地で亡くなったという伝説があります。

また、中谷には「文中三年」(一三七四)の南朝の元号が刻字された鰐口も存在します。現在中谷神社が所有し、鏡野郷土博物館に寄託されている「藤宮の鰐口」(町指定文化財・写真2)がそれです。このことからも、中谷は南朝勢力の下にあったことが想像できます。

それでは、このような伝説が残る背景にはどのようなことがあったのでしょう?当時の文献から見ると、延文五年(一三六〇)には美作守護赤松貞範が室町幕府から西大野郷(現在の大野地区)の土地を褒美として与えられている書状や、応安六年(一三七三)に三代将軍足利義満が箕浦千俊に西香々美荘内の久保田(現在の公保田)の地頭職(土地の管理支配権)を与える書状など、北朝を支持する室町幕府の支配下であったことを窺わせる史料が残されています。

写真2　藤宮の鰐口

裏面の年号
(文中三年)

町内に残された断片的な資料や伝説を拾い集めてみると、神田神社の棟札(富地区大・町指定文化財)には「至徳四年」(一三八七)、上齋原神社の神石(上齋原・町指定文化財・写真3)には康安元年(一三六一)、小田草神社の梵鐘(馬場・県指定文化財)には貞治七年(一三六八)の北朝元号が書かれています。また、宝性寺(古川)境内にある景清堂にまつわる伝説では、藤原景清という人物が二代将軍足利義詮から香々美荘の土地を恩賞として拝領しましたが、江見・村上という豪族に殺害されたという伝説があります。伝説の真偽はともかく町域南部が北朝方であったという一つの裏付けになるのではないでしょうか。

これらから推定すると、現在の鏡野町域では北朝方の勢力が強かったことが想像できます。

その中で南朝を支持していた中谷地区の勢力は周辺地域と敵対している状況であったのでしょう。こうしたことが背景となり、近衛経忠の悲劇の伝説につながる出来事が起こったのかもしれません。それでは近衛経忠とはどのような人物であったのか、そして中谷に伝わる伝説の実態については次号で説明いたします。

写真3　上齋原神社神石
(「康安元」の年号があります)

参考資料:『鏡野町史』史料編・通史編、『苫田郡誌』、『鏡野町の文化財』、『鏡野風土記』

お問い合せ先
生涯学習課　日下
電話(0868)54-7733

〒708-0421 岡山県苫田郡鏡野町井坂495 鏡野町情報広報課 TEL0868-52-2212
【鏡野町のホームページアドレス】http://www.town.kagamino.lg.jp/